

I personally don't think of profit sharing as an incentive.

個人的には、プロフィットシェアリングをインセンティブとは考えていません。

profit sharing 収益分配金制度

表現

個人ではなく、組織の業績に連動して賞与を支払う制度のことを言います。

incentive インセンティブ、奨励給

やまと言葉

incentive のコアの意味は、「何かをする) 動機、刺激、励みになるもの」ということです。そこから、成果に直接連動させることで、社員の動機付けをねらいとした賞与のことを incentive といいます。

to think of ... as ~ ~を...として考える

文法

to think A of B で、「AをBとして考える」、「AをBとみなす」という決まった言い方です。

I don't believe that in general employees work better because they think, "If I work harder I'll get ... I'll make more money, I'll share a profit." I don't think it works like that.

私は、一般的に従業員が「頑張ったら、もっとお金がもらえる、収益の分配を受けられる」と思って、よりよく働くとは思わないですね。そういうものじゃないと思います。

I don't believe... ...とは思いません

ロジック

これ以下は、前で述べたことを詳しく説明してくれている部分です。前で言われた 'incentive' の意味をよく知らないために、メインポイントがしっかりとつかめなかった場合でも、このように、メインポイントの直後で詳しく説明してくれる話し方は非常によくされますので、詳しい説明を待つ意識で聞きましよう。特に、前の文 I personally don't think... の直後に I don't believe...と来ているように、非常にメッセージ的に似た表現が重ねて来た場合、詳しく説明してくれる可能性が高いですから、それを聞き取りのヒントにしましょう。

スピーカーが言いたいメインポイントは、「プロフィットシェアリングの制度は、社員が「もっとお金がもらえる、収益の分け前をもらえる」と考えるから頑張るわけじゃない」ということですね。

they think, "... " 「...」と思っている

パターン構文

to say, to think などの後ろに、that 節による間接話法ではなく、直接話法でセリフ ("...") のかたちが続く話し方は非常によくされます。実際に口に出して言うことだけに限らず、頭の中に浮かんでいることを含め、「セリフ」のかたちで非常に具体的に描いてみせることで詳しく説明する言い方です。これが聞き取りでは意外に曲者です。「セリフ」のかたちになるために、それまでの部分から急に時制が変わったり、主語や代名詞が指す内容が変わったりしますから、慣れていないと話の筋を見失ってしまうこともあります。セリフ部分に入ったときの、スピーカーの声のトーンや話すテンポの変化なども味わいながら、「セリフ」によって詳しく説明してくれる感覚に慣れてしまいましょう。

I don't think it works like that そういうものじゃないと思います。

やまと言葉

to work は「働く」という意味よりも、「機能する」という意味で使われています。I don't think it works like that は、「それは、そういうふうに機能するとは思わない」というのが直訳の意味になります。It は「プロフィットシェアリングの制度」を指しているとも、漠然と「状況、物事」という意味で使われているとも取れます。いずれにしろ、結果的には「お金がほしいから頑張る」という仕組みじゃないと思う」という意味になります。

What I think works is, when you say to them, “You’ve worked very hard, thank you very much. I appreciate it. Here is something for your hard work.” Now, that may make them ... It makes their morale better, makes them feel appreciated, because people like you to say thank you. And then they work harder because they appreciate it.

私が思うに、うまくいくのは、彼らに「頑張ってくれて、ありがとう。感謝しています。これは頑張ってくれたお礼です」ということを伝える場合だと思います。士気が上がり、感謝されているという感覚が持ってもらえるんだと思います。人は「ありがとう」を言ってもらいたいものですから。そうすると、それを有難く思ってくれて頑張ってくれるんだと思います。

what I think works 私が思うにうまくいくこと

パターン表現 [what + v] で、what を主語にした名詞のかたまりです。what works に I think の挿入が入ったかたちです。[what + V] で一単語感覚で使ったり、理解したりできるようにしておきましょう。

what is important	大事なこと
what is going on	起きていること
what happened	起こったこと

ロジック 前の部分で I don't think it works like that 「そういうふうな仕組みだとは思わない」と言っていたのとほぼ同じ文の肯定形 (I think) がきました。ここで、挿入で「反対側」に移ったことをしっかりと押さえます。つまり、「じゃ、どういう仕組みか」という話の展開ですね。ここでは、「プロフィットシェアリングがどういう仕組みでうまくいくのか」の説明になったわけです。

morale 士気

やまと言葉 コアの意味は「(個人や集団の)情熱、やる気、勇気、規律などにかかわる意識や意気込み」で、そこから「士気、勤労意欲」のような意味になります。

make them feel appreciated 彼らが感謝されていることを感じられるようにする

やまと言葉 to appreciate ... のコアは「...を価値や重みがあるものとして受けとめる」です。そこから「ありがたいと感じる」、「感謝する」のような意味になります。

目的語を取らずに自動詞で使われた場合は、主語になっているものの「価値が上がる」という意味になります。そこからきて、「円高」のことを The appreciation of the Yen、「円高になる」ことを The yen appreciated to 102 yen to the dollar. (円が1ドル102円になった)のように言います。

文法 to make them feel appreciated は、直訳的には「彼らに感謝されていることを感じさせる」ですが、意味としては、「彼らが感謝されていると感じられるようにする」となります。

But it isn't simply saying, you know, “I’ll work more so I can take home a bigger bonus”. I don’t think that necessarily works.

でも、それは単に「もっとたくさんボーナスをもらえるから、もっと頑張ろう」というのとは違います。それは必ずしもうまくいくとは思いませんね。

but it isn't simply ... でも 単に...のとは違います

やまと言葉 この it は、漠然と「状況、今話題にしているポイント」を指す用法で、「...ということではない」といった感じで理解するとぴったりです。

It does work with executives who have very large bonuses, but I think that’s a different mentality and a different way of working.

たしかに、ボーナスの額が非常に大きいエグゼクティブの場合にはうまくいきますが、あれはまたちょっと別の意識で、別の働き方なんです。

it does work withの場合にはうまくいく

慣用表現 it は「プロフィットシェアリングの制度」を指します。to work with ...の to work は前出と同じく、「働く、仕事をする」よりも、もっと広い意味で、「うまくいく、うまく機能する」のような意味で使われています。

with 以下に、「どうした場合だとうまくいくのか」、「何についてだとうまくいくのか」がきます。

ロジック

ここも、前出の I don't think it works like that. のあとの What I think works is... と同じパターンで、ここでも、直前の文 I **don't** think that necessarily **works** 「必ずしもうまくいくとは思わない」の後に、その肯定形(it does work...) がきています。また挿入で「反対側」に移るパターンだな、としっかりと押さえます。

「確かにお金が理由で頑張る人もいるけど、あれはちょっと別なんだ」と誤解を生まないようにするための説明 (clarification) が挿入として入りました。

executives who have very large bonuses ボーナスの額が非常に大きいエグゼクティブ

慣用表現

動詞 have を使って、to have a large bonus 「高額のボーナスをもらっている」という意味が言えてしまいます。

パターン表現

「名詞(executives) + 修飾節」のかたちです。シンプルな名詞で置いておいて、後ろからその名詞が「どういうものなのか」を詳しく説明してくれるお決まりの形ですね。「名詞 + 修飾節で詳しい情報！」とひとまとまりの感覚でとらえられるように、慣れておきましょう。

mentality ものの考え方、見方

やまと言葉

コアの意味は「心のあり様」ですが、この mental の心の方は、ハート(気持ち)よりも頭(mind)の方なので、「ものの考え方」、「ものの見方」といった意味合いで使われます。

way of working 働き方

パターン表現

way of ... で「...の仕方」、「...方」という決まった言い方です。

way of thinking 考え方

way of encouraging people 励まし方

But I don't think for most employees that that works in that way personally.

とにかく、ほとんどの従業員の場合は、個人的には、プロフィットシェアリングはそういう形で機能するんじゃないと思いませんね。

But...

ロジック

「お金が理由で頑張る人もいるが、あれはちょっと別の働き方なんだ」と誤解を生まないように説明した後、But で本線に戻り、もう一度メインポイントを繰り返してくれています。スピーカーは自社で、プロフィットシェアリングの制度を導入し、非常に成功しているわけですが、「プロフィットシェアリングが、どういう仕組みとして、どういう風に導入することで結果につながるのか」にこだわっているわけです。つまりその制度が組織の成果にプラスに働いているのは、社員が「お金のために」頑張るからなのか、「自分の仕事を認めてくれ、感謝されていると感じて」頑張るからなのか。このふたつの考え方の違いを彼は重要視し、「社員がお金のために頑張ろうということで、よい結果を生んでいるわけじゃない」というのが、彼が何よりも言いたいポイントです。

I don't think (...) that that works... それ (プロフィットシェアリング) が機能するとは思わない

文法

I don't think (for most employees) that that works のひとつ目の that は、think の目的語 の名詞節を作っている that です。ふたつ目の that は代名詞で、that 節のなかの主語にあたります。この that は、「プロフィットシェアリングの制度」を指します。

in that way そういかたちで

パターン表現

in ... way で「...というやり方で」、「...いかたちで」と情報を足す言い方はよく出てきます。ここは...部分に that がきて「そういうやり方で...」となっていますから、that が何を指しているのかをしっかりと押さえることが重要です。話の本線をしっかりと頭に置いておくことで、that は「お金がほしいから頑張るという仕組み」を指しているとかむことができます。